

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都練馬区東大泉 1-17-3
園名	ベネッセ大泉学園保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

アート

<テーマの設定理由>

いつも使っている素材、使っていない素材を前に、何を考え、どのように表現していくのか、講師を迎えて環境を整えた中で行うことで、作ること、道具等に興味関心を深め、さらに追及する楽しさを感じて欲しい。

### 2. 活動スケジュール

- ①5/20 2歳児クラス：発泡スチロール板とりのり絵の具
- ②8/5 1歳児クラス：絵の具と様々な画材
- ③10/3 4歳児クラス：光をつくる
- ④2/5 5歳児クラス：色と質を探る

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

発泡スチロール板、せんたくのり、水性色鉛筆、つまようじ、筆、へら、ローラークレヨン、画用紙、ポスターカラー、ポスカ、豆腐容器、ガラス容器、アクリル絵の具、Kクレイ粘土、食紅、ホウ砂、ラメのり、片栗粉、塩、化繊、綿

年齢により、保育室、ホールと環境を変えて行った。

机とイスを用意して座って行ったり、床に養生をしてそこで座ってやったり、活動スタイルを自分で選べるようにした。また、道具、色、量など自分で選択できる環境を作った。

## <活動の内容>

- ①発泡スチロールに色を塗ったり、穴を開けたり、割ったりくっつけたりと、素材と子どもたちが対話し、思うままに形を作ってみる。
- ②画用紙だけでなく、養生シートや壁、時には自分自身に絵の具を塗り、その広がりや感触、色が混ざっていく様子を心のままに楽しむ。絵の具の色や量を自分で決める楽しさを知る。絵の具だけでなく、ポスカも使用し、色がついていく様、色の形などの気づきなども楽しむ。
- ③粘土をビンに貼り付け、小さな光を入れてその透け具合を楽しんだり、装飾をすることを楽しむ。ビンの形や色、大きさなども自分で選ぶ。中にはあえて入れない子どももいて、粘土の色や装飾する内容にこだわる姿もあった。中には、すべて水に溶かし、それで満足している姿もあった。
- ④スライムを作れる道具は用意するものの、他の素材も用意することで、色の混ざり、水の質感の変化や発見を実験のように楽しむ。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①特に子どもたちに作り方などの説明はしなかったが、道具や素材を前に、子どもたちは迷いなく使い始めていた。最初は塗ることに夢中になっていったが、発泡スチロール板が割れることに気付くと、爪楊枝で穴を開けたり、小さく割ったり、ざらざらという音を楽しんでいた。物の思わぬ特性に気付き、子ども同士の発見に影響されながら刺激を受け、作品を作り上げていた。
- ②最初は目の前の物に道具やペン、絵の具に手を伸ばし、片っ端から試していた。そのうち、絵の具やポスカを使うと色のはっきりと残ったり、手につくと面白い感触があることに気付き、紙や手、顔、壁、床などに色をのせその広がる様子を楽しんでいた。中には色というよりその感触を楽しむ子どももいて、足で踏んだり水たまりのようにためて、その動きや感触、変化を体中で楽しんでいた。
- ③様々な素材を手に取り、その特性を観察しながらも、色を付けたり粘土を付けたり、水を入れたり光をかざしたりと様々な表現を楽しんでいた。粘土と光があることで、色を付ける楽しさだけでなく、その厚みや入れている素材によって、光が透ける、透け具合が違うことを発見し、それを踏まえて瓶の周りに何を付けるか、中に何を入れるのか、試しながら作る様子があった。作品も一つではなく、次々を思いつくまま作り続け、中には水の中に粘土を付けた便を入れ、きれいに溶けていく様を楽しむ子どももいた。
- ④色にこだわったり、素材にこだわる姿が多く、何かを試しながらその表現や変化を楽しんでいる姿があった。様々な素材を目分量で加えながら、その変化を楽しむ中で、固まる水を発見し、なぜ固まったのか、これはどうか？とさらに実験的に作り続けることで、探究心を深めていた。また、その発見を友だち同士共有し、さらに試行錯誤を楽しんでいた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た職員の気づき>

・制作などは大人の想定を超えることが多く、これはこう使う、使う量を指定する等は子どもの発想と発見を制限することもあることに気付いた。子どもの発見や楽しみは人それぞれであり、そこを認めていくことで、一人ひとりの子どもたちの人格や性格、発達などの理解を深めていくことができると共通認識した。